広報九州
国民の森林・国有林
平成25年８月10日
（２０１３年）
No １６９９
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話 050-3160-6600(代表)
http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/

准フォレスター研修はじまる
～九州各県より83人が参加～

森林・林業再生の中核を担う准フォレスターを育成する研修が、７月29日より、熊本県人吉市において始まりました。

今年は、九州各県より県職員72人、国有林の職員11人、合計83人が３グループに分かれ延べ２週間にわたる集合研修を11月までに修了する予定です。

九州森林管理局甲斐博文民有林連携企画官の指導を受ける受講生

第１グループの開講式では、九州森林管理局矢野彰宏森林整備部長から、「九州からの森林・林業再生のため、民国連携してフォレスター活動ができるよう、この研修を通してフォレスターに期待される役割や習得すべき知識・技術について理解を深めていただきたい」と挨拶がありました。

講師は、外部講師を含め九州森林管理局及び森林管理署の職員も担っており、技術職員としてこれまでの経験などを活かした講義や演習を行っています。

第１週目の研修は、フォレスターの心構えや地域での合意形成に必要なコミュニケーション・プレゼンテーション力、木材の流通・販売の現状などについて講義、また、フォレスターとしての技術力を高めるため、団地の森林作業道ルートなどを描く演習や森をみて科学的に評価し将来の目標林型などを考える森づくり構想実習を行います。

第２週目の研修では、フォレスターとして森づくり構想力を高めるため、１０００㌶程度の木材生産推進団地を対象に10年間の林業専用道の整備計画と間伐計画について事業収支なども踏まえた総合的な森林資源の循環利用構想を策定し、首長などへプレゼンするつもりで発表する演習や、各県内で樹立予定の市町村森林整備計画について、１週目及び２週目の研修で得た知識・技術をもとに、計画実現に向けた見直しや取り組み方策を検討・発表し、研修の集大成とすることとしています。

森づくり構想を発表するグループ代表

また、研修では森林技術・支援センターより、民有林に対する技術支援の一環として、深刻化するシカ被害対策について効率的にシカを捕獲するための「巾着式あみ箱わな」の実演・意見交換を行い、研修生からは強度、コスト、設置所要時間など多くの質問が出され、高い関心が示されました。

現地踏査の様子

平成25年度からは、フォレスターの認定制度も始まり、平成23・24年度の准フォレスター研修修了生のほとんどが１次試験を受験しています。

今後認定された国・県のフォレスターが中心となって、市町村行政の支援や地域の森林・林業関係者の指導について活躍し、適切な地域の森づくりが実践され、地域振興につながっていくことが期待されます。

（担当＝技術普及課）

鹿児島森林管理署
栗野森林事務所
森林官　柏木　光裕

霧島山系の西端部「栗野岳」一〇六九メートル

鹿児島森林管理署北西部に位置する当事務所管内の霧島山に属する「栗野岳」を紹介します。

栗野岳は、鹿児島県姶良郡湧水町の東部、霧島山系の西端部に位置し、複数の火山が複合した霧島山の中では最も古い火山の一つとされ、標高１０９４㍍の山塊とされています。

山頂を目指す登山ルートは３箇所ありますが、いずれも山頂までは約２㌔、片道約80分の比較的緩やかで周回可能なコースとなっており、山頂付近に近づくと、ロープを手綱沿いに伝わって登る急峻な岩場などもあります。

また、登山道沿いには、キリシマアカマツ、モミ、ツガなどの天然林が自生し、山の中腹にはカエデの群生林が見られ、秋の紅葉時期は、色とりどりの樹木で覆い尽くされた錦秋の栗野岳は年間をとおして四季折々の姿を見せ、登山客の目を楽しませてくれます。

登山口から約１時間ほど登ったところには「見晴し台」という必見箇所があり、霧島連山はもちろん錦江湾、桜島まで大パノラマで眺望できる草地が広がりを見せています。

山麓には、登山道の途中に５６１段ある日本一の枕木階段と馬の放牧が見られる「栗野岳レクリエーション村」、豊かな自然と芸術作品が楽しめる野外美術館「霧島アートの森」、登山で疲れた体を癒やしてくれる「栗野岳温泉」、白煙を噴き続ける八幡地獄という大小様々の噴気孔が見られます。

また、自生地南限に自生する国指定天然記念物のヒガンザクラなどがあり、ここでしか味わえない自然と調和した芸術と行楽を多くの町民と観光客が訪れ賑わいを見せています。

読者の皆さんも是非、見所多い栗野岳へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

栗野岳の遠望

５６１段ある日本一の枕木階段

アートの森作品

「フォレストピア石河内」の環境整備

【西都児湯森林管理署】宮崎県木城町石河内にある「日向新しき村」や集落が一望できる「フォレストピア石河内」で、林内散策を気持ち良く楽しんでいただこうと約60人が参加して環境整備が行われました。今年は、フォレストピア石河内保全協議会と九州電力宮崎支社や地元土木業者の皆さんのボランティアの参加をいただきました。当日は、展望所周辺などの下草刈りや植木への施肥、植樹木などの枯れ枝や落枝の除去、ゴミ拾いなどを行いました。ボランティアの応援もあり、きれいになったフォレストピア石河内へ、多くの方々の来訪を期待しながら作業を終了しました。

環境整備を行うボランティア＝西都児湯

第6回 照葉樹林研究フォーラム開催される

平成25年7月6日に宮崎県綾町高年者研修センターにおいて、照葉樹林研究フォーラム実行委員会・てるはの森の会主催、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議の共催で、「第6回照葉樹林研究フォーラム」が「照葉樹林の保全と★ユネスコエコパーク」をテーマに、100人以上の関係者などが出席し開かれました。

今回の「照葉樹林研究フォーラム」は、綾での森林保全の取組の歴史と事例発表から綾町の現状を理解するとともに「綾ユネスコエコパーク」の未来を考えることを目的に、各級機関から13課題が発表されました。

大勢の関係者が参加したフォーラム会場

発表は、二部構成でテーマ1、「森の保全とユネスコエコパークとの関わり」、テーマ2、「綾からの発信」と題して、また、九州森林管理局からは宮崎森林管理署の上別府悟総括森林整備官が「国有林の森林経営について」事例発表を行いました。

発表終了後は、今後の綾のプロジェクトの推進に向け活発な意見交換などが行われました。

★ユネスコが認定する「生物圏保存地域」の国内通称で、1976年から登録が始まり九州では屋久島が含まれる。95年以降の認定には自然保護重視に「持続可能な形で地域も発展しないと、多様な生態系も守れない」という考え方が加わった。

（担当＝計画課）

福岡市立百道小学校へ出前授業

【福岡森林管理署】福岡市立百道小学校からの依頼で、4年生児童を対象に、総合的な学習の時間を利用した森林教室を行いました。児童らは、社会科授業での「水とわたしたち」の学習を通じ、森林と水が関係していることや、「森林の働き・森林管理署の仕事」などについて学びました。「保水力試験キット」を使った実証実験では、土を同量の容積まで詰め、上から水を注ぎ、落下時間の経過を観察するというもので、結果は、森林土壌は水をゆっくり浸透させ、蓄える働きがあることを立証することができ、森林環境教育の一助となりました。

職員の説明を熱心に聞く児童ら＝福岡

首里城古事の森づくり

ちょっと一言

先の沖縄戦で灰燼に帰した首里城は、沖縄の日本復帰20周年の記念行事として復元され、平成4年11月3日の文化の日に開園されました。以来、首里城は、琉球王国の歴史、文化の象徴として、また、沖縄観光の中核的な拠点として、内外から高い評価を受け、平成12年には首里城跡を含む「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界文化遺産に登録されました。

昭和33年に守礼門が復元されたときには、沖縄本島国頭産の「オキナワウラジロガシ」が使用され、当時、首里高生だった私も古式に乗った木曳き式に参加した思い出があります。一方、首里城の復元に当たっては、沖縄県内から調達された用材はなかったそうで極めて残念なことでした。将来、首里城などの修復が必要となったときに、全ての用材を県内から調達することは困難だとしても、往時の政治家「蔡温」が推進したように、出来るだけ自給自足を目指した森林政策は学ぶべきことは多いと思います。

首里城古事の森育成協議会
会長
照屋　寛孝

首里城や竹富島などの伝統的建造物群に象徴される沖縄の木の文化の継承に貢献するとともに、森林・林業の振興にも資する活動を推進するため、平成20年3月に首里城古事の森づくりをスタートさせ、その活動の推進母体として沖縄森林管理署、沖縄県、国頭村、沖縄美ら島財団、森林・林業関係団体などを構成員に「首里城古事の森育成協議会」が設立されました。

具体的な活動となる「首里城古事の森」を、沖縄森林管理署のご配慮で沖縄本島北部の国有林に設定していただき、平成20年度からイヌマキ、オキナワウラジロガシ、イジュの植樹を始め、24年度までに1・2㌶、1300本程植樹をしてきました。

今後とも、関係各位のご協力とご支援を頂き、地道に活動を継続していきたいと念じております。

モニターの声

市原　美栄子さん

大切なもの 大事にしたいもの

一本植えれば木、二本植えると林、三本で森になるという。森林との関わりは、いつ頃からだろうと思った時、幼い頃、田舎では五右衛門風呂を杉の枝をたきつけにして薪で沸かしていた。今は亡き祖父と一緒に拾い集めたのを思い出し、スイッチ一つでお風呂が沸く今の生活からは考えられないことで、その当時の山は普通にズックで歩けるほどだった。いつも山に人が出入りしていたからだろう。

今や薪を使うこともなく、林業従事者の高齢化と木材価格の下落により国有林以外は山林地主の大きな負担となり山がどんどん荒れている。竹やツタに席巻されている山を見るにつけ、とても心痛む思いがする。モニターになってホームページなど関心を持って見るようになった。

森林には、国土の保全、水源のかん養、地球の温暖化防止に貢献、木材住宅棟に利用した時には室内の調湿効果、ダニの行動抑制効果、情緒面の安定効果、そして自然環境の保全と維持と、図り知れない恩恵を受けて私たちの生活は成り立っているとつくづく感じた。

山が荒れると海も荒れていく。島国日本に住む私たちは、先人たちが大切に守り育ててきたものを次世代に引き継いでいかなければならない。戦後多数植えられたスギが成木となり花粉を大量に飛散させている。スギは、日本の林業にとって欠かせない樹木だが花粉症の人たちにとってはつらい春となる。

平成4年に無花粉症スギが発見され、平成24年からは林業用に苗が普及される予定でスギ花粉の少ない春に向けた取り組みは、着実に進んでいるという。

竹炭や木材チップ、粉砕した竹の肥料など、森林の保護、育成、活用は山を大事に思う気持ちと日本のレベルの高い研究、技術が一体となって、これからどんどんと進んでいくことを願って止まない。

（大分県竹田市在住）

都城市立祝吉小学校で森林教室

木工クラフト作りをする親子＝都城

【都城支署】都城市立祝吉小学校PTAの要請で3年生を対象に森林教室を行いました。当日は児童ら、教職員・保護者約200人が参加。森林教室では、「森林の役割」について5つのキーワードを元に話を行い、最後はクイズにしたところ、問題を読み終える前に答えるなど、たのしい授業となりました。その後、木工クラフト・しおり作りを行い、創作意欲にあふれるペンダントや、自分だけのしおりが出来上がりました。当日は木に触れ森林に興味を持った楽しく有意義な1日となったようでした。

「ゴイシツバメシジミ」勉強会を開催

【熊本南部森林管理署】水上村市房キャンプ場において、地元小学生約20人を対象に、国内希少野生動植物種の「ゴイシツバメシジミ」の勉強会を行いました。講師に九州大学の三枝豊平名誉教授を迎え、ゴイシツバメシジミの産卵から羽化までの生活環や保護の必要性について学びました。また、石神智生署長から「森林と生物多様性」と題し、森林の大切さや森を守り育てることの重要性について話があり、参加者はプランターで増殖したシシンランの花に触れたり、顕微鏡で幼虫を見るなど、貴重な体験に感動していました。

シシンランの花に触れる児童ら＝熊本南部

「クリーン活動」で林内清掃

【熊本森林管理署】「国民の森」クリーン月間に併せ、7月31日、当署主催で「菊池渓谷周辺及び菊池阿蘇スカイラインのクリーン活動」を行いました。熊本県や菊池市、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会、（社）熊本林業土木協会、請負事業体、地元住民など約60人が参加。「菊池渓谷」から菊池阿蘇スカイライン沿線で不法投棄ゴミの回収を行い、一般家庭ゴミ、古タイヤや家電製品などで4トントラックは満杯となり、当日は新聞社の取材もあり新聞に掲載され、この活動が不法投棄の抑止力になることを期待しています。

クリーン活動で集めた大量のゴミ＝熊本

九州各県庁との意見交換会を実施

国有林は一般会計化に伴い、これまで以上に民有林施策との連携が求められています。

平成25年度より民国連携の新設統括ポストとして上田浩史業務管理官（次長）が就任しました。就任に当たり民国連携の取り組みをより一層、推進するため九州各県への訪問の機会に意見交換会を行っています。

九州森林管理局からは次長に加え、企画官（民有林連携担当）、林政推進係長、森林管理署からは署長に加え、地域林政調整官、森林技術指導官などの民国連携担当者が県に出向き、昨今の林野行政の課題などについて、意見交換を行うとともに、各県の林務担当者が一堂に会する中、相互の交流を深める機会としています。

これまで、4月の熊本県を皮切りに、福岡県、大分県、宮崎県、佐賀県、鹿児島県を順次訪問してきました。技術交流の推進、木質バイオマス発電を取り巻く今後の課題、有害鳥獣対策、森林共同施業団地の取り組みなどを主なテーマとして、各県からは具体的な施策の提案や、従前に増した国有林との連携の確保などの要望が提起され、有意義な意見交換会となっています。

9月には長崎県への訪問を予定しています。九州森林管理局としては今回の取り組みを一つのきっかけとして、今後さらなる民国連携に向けた取り組みを進めて参ります。

（担当＝企画調整課）

意見交換会冒頭で挨拶をする上田次長

研修生が間伐展示林を視察

【大分森林管理署】大分県中部流域林業活性化センターと連携して由布市星岳国有林に設定している間伐展示林を「公益財団法人森林ネットおおいた」が実施中の研修生が、視察研修に訪れました。当展示林は、間伐の普及を目的に約12㌶を列状、帯状、放射列状、定性、鋸谷式に区分し間伐を実施。研修生は当署の森林技術指導官の説明を熱心に聞き、展示林内を念入りに見学。研修生からは「各区の間伐方法を現地で一度に見ることができ、大変参考になった」との感想がありました。

展示林内を見学する研修生＝大分

椎葉村立尾向小学校で森林教室

【宮崎北部森林教室】椎葉村立尾向小学校からの依頼で全校生を対象に森林教室を行いました。最初に「山学校みどりの教科書」で森林の役割や働きを学習。シカカード体験では、シカが増えすぎると大変な被害が発生する事を学び、丸太切り体験では、暑い中みんな一生懸命に鋸をひき、切ったスギの皮を剥いで臭いを嗅いだり、年輪を数えたりして全員が持ち帰っていました。

シカカードに挑戦する児童ら＝宮崎北部

森林春秋

世界遺産の森を後世に

本年6月に富士山が世界文化遺産に登録され大きく報じられた。今やすっかり世界遺産の名が国内にも定着した。国内で最初の世界遺産登録は平成5年。この年に世界自然遺産に屋久島と白神山地が登録され、本年12月に登録20年を迎える。

当局管内の屋久島では、登録を機に観光客が大幅に増加する一方で、オーバーユースやシカ被害の増大などさまざまな問題も顕在化。遺産地域の大部分を占める国有林では、これまで関係機関や地元関係者と連携を図りつつ保護保全に取り組んできている。

私は本年5月に30年ぶりに屋久島を訪れ縄文杉に再会した。何千年という樹齢からすれば30年などほんのわずかな時間であるが、縄文杉も1年に一つずつ年輪を重ねてきたのだと思うと感慨深い。古歌に「この秋は、雨か風かは知らねども、今日のつとめの田の草をとる」とあるように、先のことを見通すことは難しいものの、今必要なことをやらなければ、将来期待する果実が得られないことも確かなこと。私たちも貴重な国有林を後世に引き継げるよう、世界遺産登録20周年を機に、さらに取組みの年輪を一つ一つ重ねていきたいものだ。

（計画保全部長　中山浩次）

第17回「森の塾」を開講

県内の小学校教諭16人が受講

森林・林業の現状などの認識を深めると共に、環境教育における森林・林業の活用法などを学ぶことを目的に8月2日、監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭16人が参加し、「森の塾」を開講しました。

今回で17回目となる「森の塾」では、まず、「動物交差点」などのネイチャーゲームを行った後、「森林・林業の再生と生物多様性における森林の役割について」や「熊本の木になる話」などや、また、事前に質問があった身近にできる「森林を守る取り組み」の講義を行いました。

その後、同園内を散策し、樹木に触れながら、樹名の由来や特徴などを学びました。

午後からは、「シカの現状と対策について」の講義の後、「シカと森林のカード」で生物多様性の観点から森林とシカの関わりを楽しみながら理解するゲームを行い、参加者の認識を深めました。

木工クラフトで、「くまもん」をモチーフにした壁掛けやコースターなどのかわいい作品が完成。火起し体験では、汗をかきながら真剣な眼差しで疲れも忘れて着火するまで挑戦していました。

参加した先生からは、「ネイチャーゲームを英語の授業で活用したい」「子供たちに木の魅力を教えたい」などの具体的な感想が寄せられ、今後の教育現場における森林・林業の普及啓発に大きく期待出来る学習の場となりました。

（担当＝技術普及課）

完成した作品を手にする参加した先生ら

人のうごき

8月1日付森林管理局長発令

経理課経理第二係長
古澤寿光（森林整備部付）

北薩署森林整備官
古村健児（経理課経理第二係長）

北薩署付
戸島章治（北薩署）

（担当＝総務課）

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

⑦⓪ テーダマツ（マツ科）

テーダマツは北アメリカのテネシー州やテキサス州などに分布する樹種で日本には明治時代に渡来したそうです。

マツカサが大きいことで知られ、長さ7～13㌢程度あります。球果の鱗片の付き方は、対生や互生でなく渦巻状に付き、下側から見ると8本の渦巻き状となっています。

球果を横にすると鱗片は綺麗な溝状となっており、鱗片の先に付いている鋭い刺は種子を鳥などから食べられない工夫と見られます。

葉は3本ずつ出る三葉マツ類であり、長さは20㌢前後。樹皮は亀甲状に割れます。

ダイオウショウやリキーダマツなど外国産のマツ類はほとんどが3葉となっています。

マツ材線虫病に対しては高い抵抗性を示すことから、激減した在来のマツに代わって植林されたこともありますが、日本は台風が多く、風や雪に弱いテーダマツは植林木としては根付かなかったようです。

テーダマツの特徴は、針葉に鋸歯があることです、観察して確かめましょう。

みどりの散歩路

盛夏、今年も夏の高校野球が開幕した。天然芝のグラウンド、球場外壁の蔦、甲子園は高校球児の聖地である▼スポーツには種目毎に聖地がある。サッカーの国立、ラグビーの花園、バスケットの代々木などなど▼競技する人達はそこに行くことを夢見て日々精進する。それぞれの聖地は土・天然芝・木製の床・壁など、いずれも自然の物を取り入れ整えた環境である▼人は自然やそれに近い環境に心癒やされ気が安らぐ。「あそこで思い切り動きたい」という欲求も聖地を目指す動機のひとつと考えるのは勝手な思い込みだろうか▼温暖化・異常気象と言われて久しい。今年は特に局地的な大雨、猛暑の報道が目につく。昨年の九州北部豪雨のような災害はいつ発生しても不思議ではない▼一般会計化後、国有林の公益的機能の一層の発揮や環境維持のため何が必要か？森林に携わる者として改めて考えさせられる▼余談ながら、小生の甥が今夏の甲子園に出場する。今年は特に暑く怪我のないよう脱水症対策も万全に、彼らの精一杯の頑張りに期待したい。（一）